

探究的な学習の在り方に関する研究推進地域		
連携中学校区：安芸太田町立加計中学校区		
連携地域を構成する学校		
学校名	学級数	児童生徒数
安芸太田町立加計中学校	5	53
安芸太田町立加計小学校	8	101
(R3.11.1現在)		

### 1 指導上の課題

小・中学校ともに、総合的な学習の時間の内容が前年踏襲の流れになっており、児童・生徒主体の探究活動になっていない状況がある。また、中学2年生対象に行った令和3年度広島県児童生徒学習意識等調査の分析を行うと、県平均よりも10ポイント以上低かった項目（以下に示す）から、「学習習慣・学習意欲」「考えること」「自己実現力」に課題があることが明らかになった。

一方、強みとして10ポイント以上高かった項目は、(21)【実行】、(26)【体験活動】、(27)【総合】の項目であり、「実際に取り組む」や「体験活動をする」といった行動力や実行力があることがあげられる。学習が自分のものになっていないから、やり抜く力にもならない、もっと考えたいという意欲にも結び付いていないのではないのかと考察した。

また、将来の夢や目標をむかって、自分で決めたことにはやり抜こうとしているが、自分と違う意見を考え、思いを述べる力に課題があると考える。

(表1)「広島県児童生徒学習意識等調査」加計中学校2学年 16名

(番号)・【領域】・内容	本校 2学年	県	差
(10)【学習習慣・学習意欲】 学習を最後までやりとげて、うれしかったことがある。	46.7	79.9	-33.2
(12) 分からないことはそのままにせず、分かるまで努力します。	60.0	78.1	-18.1
(20)【まとめ・創造・表現】 授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手にわかりやすく伝えるように発表を工夫しています。	40.0	61.9	-21.9
(22)【振り返り】学習の振り返りをするときには「どこまでわかったか」「学習方法でうまくいったことや失敗したことの原因」を考えています。	46.6	71.4	-24.8
(23) 学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」、「もっと調べてみたいこと」、「もっと工夫してみたいこと」などを考えています。	53.3	65.1	-11.8
(25)【話し合い】授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	60.0	82.1	-22.1
(44)【自己実現力】将来の夢や目標をもっています。	60.0	74.2	-14.2
(45) 将来の夢や目標はかなうと思います。	46.6	64.7	-18.1
(48) 努力すれば、自分もたいていのことはできると思います。	66.7	83.0	-16.3

### 2 研究の概要

#### (1) 研究テーマ及び研究のねらい

自らの生き方を切り拓く基盤となる資質・能力の育成～ふるさとに学ぶ小中9年間を見通した探究的な学習をとおして～と題し、今年度、新たな単元の開発をもとに、実態に応じた資質・能力の見直しを行う。

#### (2) 資質・能力の設定について

加計小・中学校の教職員で、児童生徒の姿について熟議したところ、児童生徒の【強み】は、言われたことは真面目に取り組む素直さ、受容力、人のことを気に掛ける、他人肯定力、助け合い、人へのフォローなど思いやりがあること。【弱み】は、先のことを考えて動く力、先をみて自分で考えて動く力などの自分で考えて動く力や、粘り強さ、耐える力、あきらめない力、忍耐力、面倒くさがらずにやり切るといったやり抜く力があることを整理した。人のため、誰かのためなら進んで行動することができるという強みをうまく活動の中に取り入れていくことで、弱みである、自分から進んで取り組むことにつなげていきたいと考えた。このことから、小・中学校がめざす児童像・生徒像、こんな児童・生徒になってほしいという姿を想定し、資質・能力の再設定を行った。探究的な学習を通して、「自ら求め・自ら考え・最後までやり抜く」ことを小・中学校で共通して取り組んでいく。



#### (3) 取組について

##### 【探究的な学習の充実に向けての取組】

既定路線での実践をやめ、各学年、「活動ありきではなく、まずは自分たちで問いを立てること」を意識した単元の開発を行った。ポイントとして、①指導者が苦勞するのではなく、児童・生徒に苦勞、失敗させ、そこから学ばせる。②成果物は求めない。1年間の学びの足跡を残しつつ、その取組過程を評価する。③詳細の年間計画ではなく、実践記録を次年度につなげる。④ゲストには児童・生徒自身の求めと行動で、出会わせる。の4つを定め、各学年ならではの主体的な取組を進めた。

##### 【小中連携の取組】

資質・能力の再設定を行う上で、小・中学校の課題や現状を共有することができた。共通する課題も多くあり、小・中学校で連携して取り組んでいく必要があると再認識することができた。しかし、今年度、互いの授業や学びを参観したり、協議したりという児童・生徒の学びの姿を共有することができなかった。

##### 【資質・能力の評価】

今年度は、中学校において、それぞれの資質・能力にそった評

価規準を設定し、生徒の自己評価表を作成した。単元の振り返りを行う際、これまでの活動を通して、どの資質・能力が育ったか自己評価を行う際にご活用した。

### 3 実践事例

#### 【探究的な学習の充実に向けての取組】

中学校第2学年「働くことの意義」

はじめに、「宝くじで10億円当たったら働かなくなるのか?」と問いかけ、「働かない」と答えた生徒は16人中1人だった。このことから、「お金があるのに、なぜ人は働くのか?」という問いが生まれ、「何のために働いているのか?」身近な人へのインタビュー活動を行うこととなった。インタビューの結果、分かったことなどをパワーポイントにまとめた。職場体験学習の実施がかなわなかったことから、働く意義や地域の働く人について、実際に聞いたり、働くことを通じて実感したりすることはできなかったが、職場体験を行う予定だった方々へ、生徒自身が考えた疑問について手紙を送り、手紙の回答をもとに、その職場についてまとめることができた。学習のまとめとして、「将来の夢」についての作文を作成した。作文では、これまでの学習から、働くことへのイメージが変わり、大人になって働くことへの不安や期待が書かれていた。また、今の自分たちにどんな力が必要なのか、どうするとよいかを深く考える生徒もいた。

#### 【個に応じた指導の充実】

児童・生徒一人一人が課題を考え、個の課題をグループで共有したり、クラス全体の課題と捉え、知識構成型ジグソー法を用いて様々な視点から考えたりすることで、新たな考えや解決につながるヒントを見つけることができた。また、中学校第2学年において、「将来の夢」について作文していく中で、生徒同士で読み合い、お互いの良いところや改善点を交流し、何度も修正していくことで、よりよいものとなった。

### 4 研究の成果と課題等

#### (1) 成果

小・中学校ともに、子どもたちが自ら探究したくなる課題の発見に時間を十分かけ、自分たちで問いを立てたことで、試行錯誤しながら、粘り強く取り組むことができた。コロナ禍で様々な制限がある中、ICTを活用したり、電話や手紙、インタビュー活動をしたりすることで、学校外の様々な人に出会うことができた。これは、用意された出会いではなく、児童・生徒が求めた出会いであり、どうすれば、自分たちの知りたい情報、解決につながるヒントを手に入れることができるのかをしっかりと考え、悩み、様々な疑問の解決方法を知ることができたと考える。これは、これまでの学習が自分のものになっておらず、やり抜く力やもっと考えたいという意欲に結び付かなかったという指導上の課題を、新たな単元の開発を行いチャレンジさせることによって、児童・生徒の資質・能力の育成につながったからではないかと考察する。

また、2月に中学校全学年を対象に、6月に実施した生徒質問紙をもとに、アンケートを実施した。(表2)加計中学校2学年16名の結果である。)ほとんどの項目において、肯定的評価がアップしている。「将来の夢や目標をもっている」という項目において、2.9ポイント下がっているが、「将来の夢や目標がかなうと思いますか」という項目において3.4ポイント上昇していることから、夢や目標をもっている生徒がその夢や目標がかなうと実感することができるようになったと読み取ることができる。このことは、今年度設定した資質・能力を育成する過程において、同時に、自ら進

んで取り組む力を向上させたのではないかと考える。自らの将来に向けて目を向け、自身で考え行動する力は生徒がよりよい未来を自らの手で切り開いていくことにつながっていく。

(表2)「広島県児童生徒学習意識等調査」加計中学校2学年 16名

(番号)・【領域】・内容	本校 2学年 2月	6月と の差
(10)【学習習慣・学習意欲】 学習を最後までやりとげて、うれしかったことがある。	71.4	+24.7
(12) 分からないことはそのままにせず、分かるまで努力します。	71.4	+11.4
(20)【まとめ・創造・表現】 授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手にわかりやすく伝えるように発表を工夫しています。	78.6	+38.6
(22)【振り返り】 学習の振り返りをするときには「どこまでわかったか」「学習方法でうまくいったことや失敗したことの原因」を考えています。	50.0	+3.4
(23) 学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」、「もっと調べてみたいこと」、「もっと工夫してみたいこと」などを考えています。	64.3	+11.0
(25)【話し合い】 授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	100.0	+40.0
(44)【自己実現】 将来の夢や目標をもっています。	57.1	-2.9
(45) 将来の夢や目標がかなうと思います。	50.0	+3.4
(48) 努力すれば、自分もたいいのはできると思います。	92.9	+26.2

#### (2) 課題

小学校では、「児童の問いからスタートしたことで既定路線からの学習が脱出できたものの、ゴールをどこに見定めるのかを指導者自身が明確にできにくかった」こと、「資質・能力の育成という視点での教材研究が不十分である」という反省があがった。中学校では、「育成したい資質・能力が、活動によってどう発揮され、どう育っていつているのか生徒と共通理解をもつことが不十分だった。」「成果物や活動の記録を可視化したポートフォリオを作成する必要がある。」という反省があがった。両校の課題を共有し、9年間の学びのつながりを図りたい。また、「将来の夢や目標をもつ」ことへの意識を深めるため、より自分事として捉え、将来を見据えた取組を行う必要があるのではないかと考える。これは、資質・能力の「求める」につながる。今まで以上に「人・もの・こと」への視野を広げ、児童・生徒が、自ら追究したり、提案したりできるようにしていきたい。

#### (3) 今後の改善方策等

今後の取組として、①子どもたちが苦勞し、失敗から学べる探究を行う。②子どもたちが自分の言葉で活動を行った理由を説明することができる。③自己の変容に気づくことができるよう、取組過程の足跡を残し、評価につなげる。の3つをポイントに今年度開発した単元の修正・改善を行い、より洗練された取組を行っていききたい。そしてなにより、小・中学校ともに、児童・生徒が目指す姿を共有し、9年間の学びを組織的に行うことに力を入れていききたい。